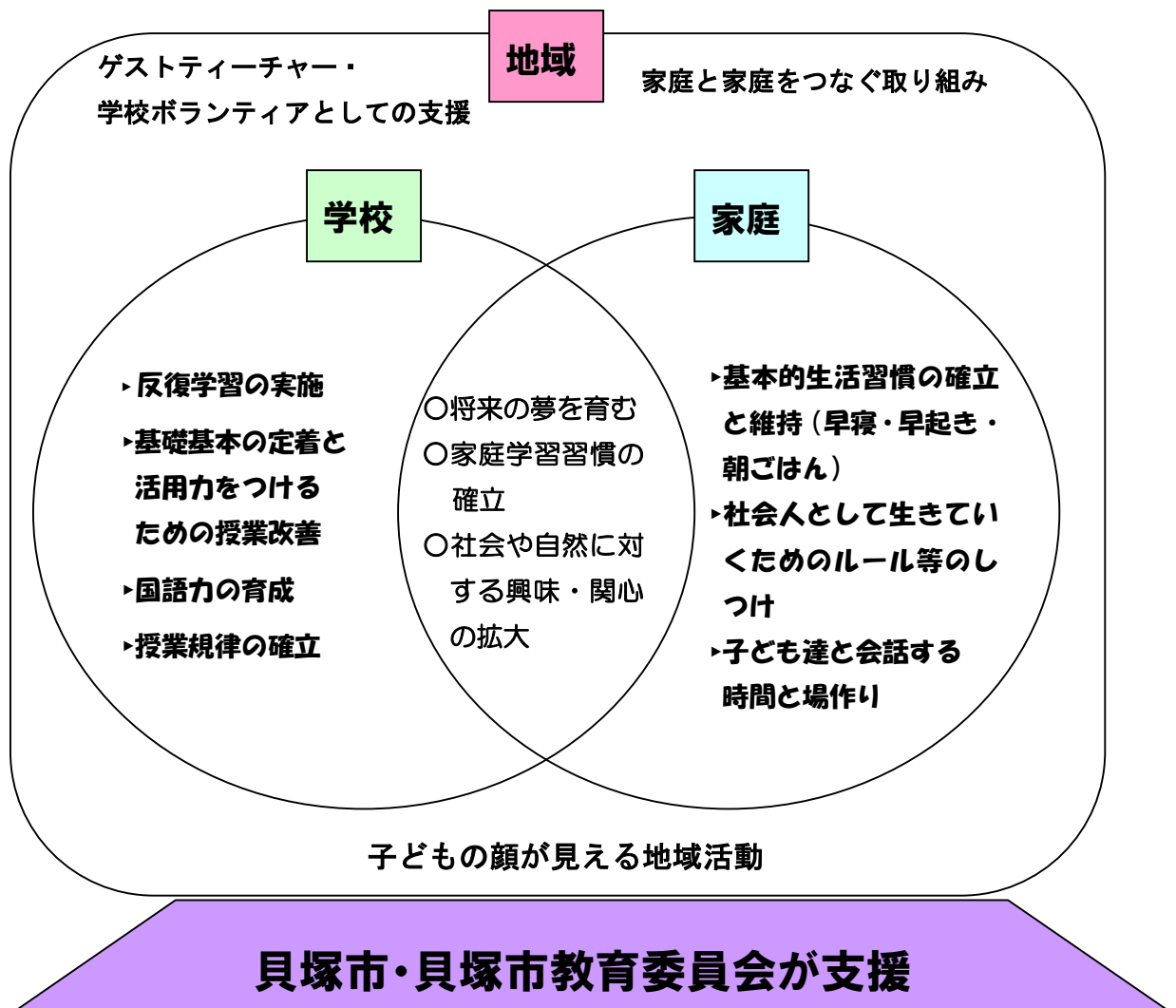


(5) 今後の取り組みについて

昨年度提示したのが下の図であり、本市の教育の骨格となる取り組みの方向である。

今年度の実態調査からも昨年度と同様の課題を見ることができる。学力向上のために必要な課題は、多岐にわたっており、学校・家庭・地域の連携が、不可欠であると考えられる。そこで、今年度も昨年度からの取り組みを引き続き行い、さらに浸透・定着させるよう進めていく。



学校や子どもを取り巻く状況は、小学校・中学校、また、それぞれの学校により異なり、一律の対応で課題を克服することは困難である。そのためそれぞれの学校から、分析と独自の課題提示、行動提起がなされるが、これらの動きを受けて、引き続き、学校・家庭・地域がスクラムを組み、子ども達のすこやかな成長を願い、協働の取り組みを展開していきたいと考えている。

1. 学校において

◇反復学習の実施

様々な教科で、脳の活性化の視点を踏まえ、さらなる反復学習の推進を図る。

- ①**携帯ゲーム機の活用**＝漢字や英単語などを楽しみながら習得する
- ②**各種検定への挑戦**＝漢字検定・英語検定などを実施する。

◇基礎基本の定着と活用力をつけるための授業改善

- ①大阪府教育センター「**カリ・ナビ**」の活用や、**カリキュラム研究室**と市教育委員会が連携した研修を引き続き行う。
- ②「教えること」「考えること」を明確にし、活用力を伸ばし、基礎基本の定着を図る「**教えて考えさせる授業**」の普及を図る。
- ③**フィンランドメソッド**を取り入れた、活用力を伸ばす学習方法の研究を進める。

◇国語力の育成

国語力の育成を、あらゆる教科で行う。

- ①**全ての教科指導や活動の場面**で、国語力を伸ばす取り組みを意識的に行う。
- ②**読む力**（文章、資料、グラフなど）と**書く力**（条件や形式に応じた文章、長文や短文など多様な文章）を伸ばす指導の工夫を行う。

◇学習に臨む姿勢・態度・意欲を育てる**授業規律の確立**

- ①板書・ノートのとり方・指名の仕方・指示や発問の出し方等の指導力を向上するとともに、子どもたちの学習に向かう姿勢作りを9年間一貫して行う。
- ②**道徳教育の充実**や、**自治意識を高める**取り組みを行う。

2. 学校と家庭が連携して

◇将来の夢を育む

- ➡学校においては、様々な生き方をしている人に**出会う場面**を意識的に作る。
（職業体験、ゲストティーチャー、伝記やテレビ情報など）
- ➡家庭においては、これらの出会いを大切に、**子ども達が将来に夢や目標を持つことができるよう**働きかけをしていく。

◇家庭学習の習慣の確立

- ➡学校においては、明日の学習までに必要な**予習や準備を宿題**に取り入れるなど、学校での学習とつながる多様な宿題の在り方を研究する。
- ➡学校においては、「**おおさか・まなび舎**」事業などを活用し、放課後や長期休業中に、学びたい子どもに応じられる「場作り」に取り組む。
- ➡家庭においては、**家庭学習の習慣化**を図る。

◇社会や自然に対する興味・関心の拡大

- ⇒学校においては、**総合的な学習の時間**や「よのなか科」など、活動内容を工夫することで、子ども達の興味・関心を広げていく。
- ⇒家庭においては、**ニュースの話題**を柱に、子どもたちが世の中の事に興味を持つことや、**自然の中へ出かけたりする**など、子ども達の知的好奇心を広げるように心がける。

3. 家庭において

◇基本的生活習慣の確立と維持

睡眠は、脳の中に入った情報を整理する働きがある。また、人の脳が学習に反応するようになるには、目覚めから2時間が必要だと言われており、早起きが大切である。加えて、**朝食**を抜くと、脳の活性が低下するだけでなく、集中力や持続力にも悪影響を及ぼすと言われている。

- ⇒「**早寝・早起き・朝ごはん**」運動を行い、家庭全体で、規則正しい生活を送るよう取り組む。

◇社会人として生きるためのルール等のしつけ

社会人として生きぬく力を身につけることができている事に起因する様々な社会問題が起きている。ルールを守るためには、**我慢したり、協調したりする力**が必要である。このような力は、子どものころから時間をかけて繰り返し指導するしつけによって定着するものである。そして、この力が、学びには重要な要素である。

- ⇒**ルールを守る・人の気持ちを考え行動をする**等の価値観の共有を家族全員で行う。

◇子ども達と会話する時間と場作り

激しい社会の変化の中、ゆとりを持って生活することが難しい状況にあるが、**少しの声かけや子ども達の声に耳を傾けることが、学びの意欲や感心につながる。**

- ⇒食卓を囲む時や入浴、テレビを見ながらなど、子どもたちとの**会話の場面**を少しでも多く持つ。

4. 地域において

◇子どもの顔が見える地域活動

子ども達が育ちの中で、地域が果たす役割はたいへん大きいものがある。人は、見ず知らずの人の中よりも、知り合いの中では自分を律することが多い。「**学校支援地域本部事業**」を活用し、「**あいさつ運動**」や、「**子どもの安全見まもり隊**」、「**すこやかネット活動**」地域の「**子ども会活動**」など、地域の大人と子どもが、知り合いとなり、つながりを広げ、深めていくことが大切である。

◇ゲストティーチャー・学校ボランティアとしての支援

本市では、地域の方々の積極的な取り組みにより、学校が地域コミュニティの拠点になりつつある。ゲストティーチャーや学校ボランティアとの出会いが、顔見知りになるというだけでなく、**子ども達の憧れや尊敬の対象**となり、子ども達の生き方や夢に大きな影響を及ぼすことも多い。

◇家庭と家庭をつなぐ取り組み

核家族化や、住宅の開発により、家の周辺で、知り合いや相談できる相手がいないう家庭も年々増加してきている。**子育て中の家庭と子育てを経験してきた家庭がつながる**ことで、子育ての不安が解消される事例も多い。地域の取り組みを通して、**家と家がつながっていく**ことを期待している。